



2020年2月期 決算説明資料

2020年4月15日

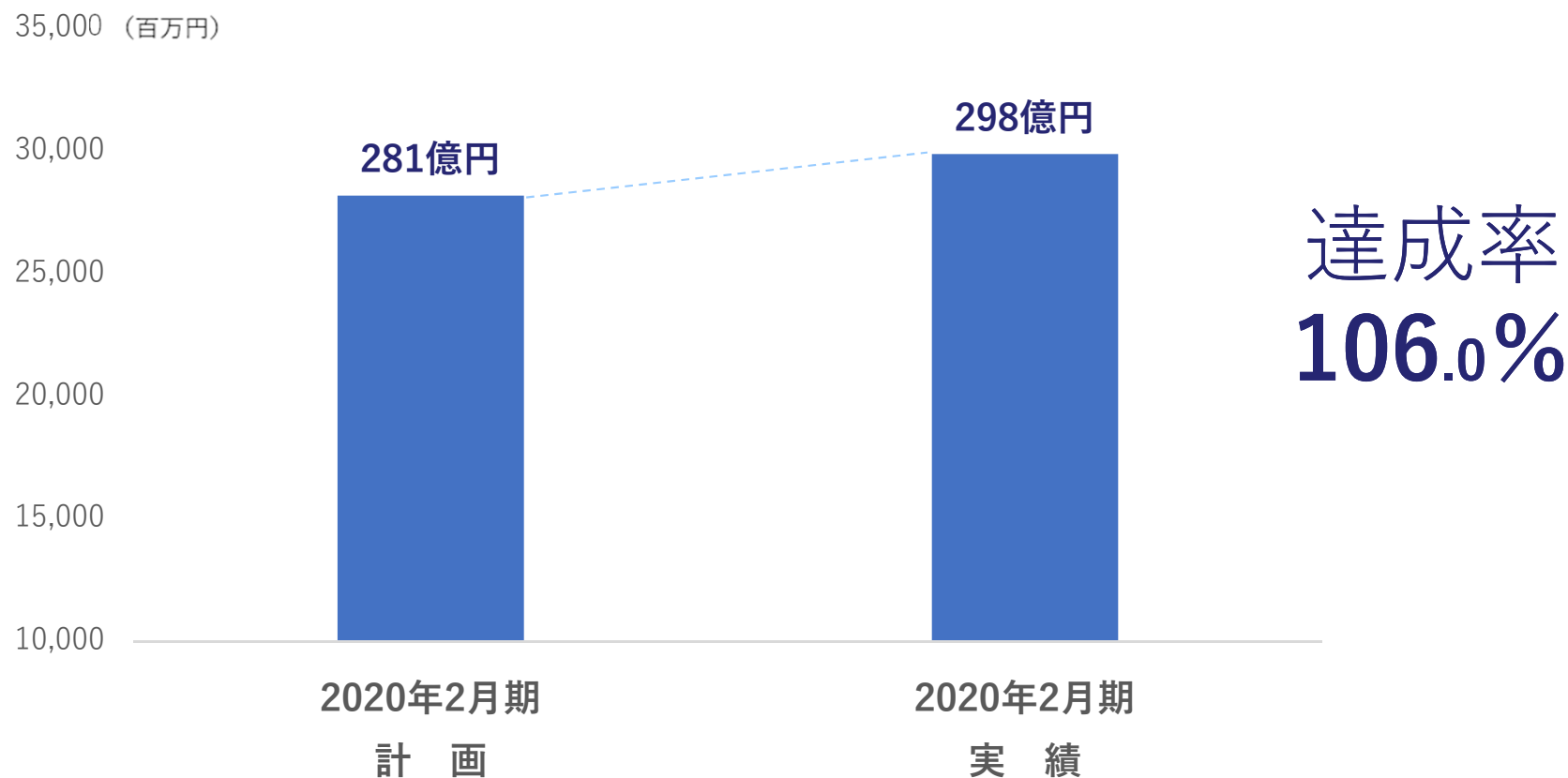
株式会社ヨシムラ・フード・ホールディングス
(証券コード：2884)

- I. 2020年2月期 決算ハイライト
- II. 2020年2月期 決算概要
- III. 2021年2月期 業績計画ハイライト
- IV. トピックス
- V. 事業戦略
- VI. Appendix

1. 2020年2月期 決算ハイライト

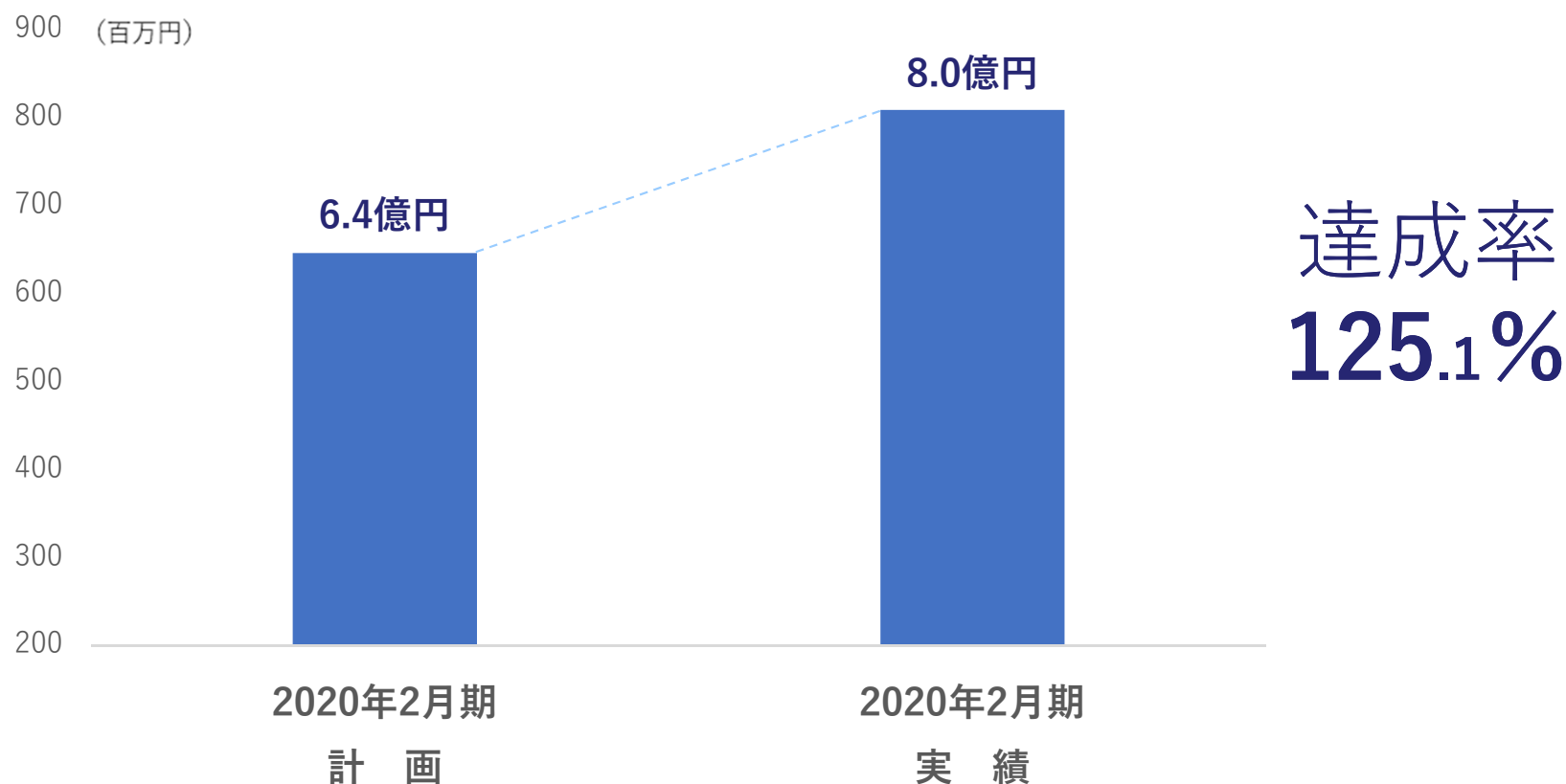
売上高

売上高は、M&Aにより当期に新たにグループ化した2社の貢献等により、達成率**106.0%**となる



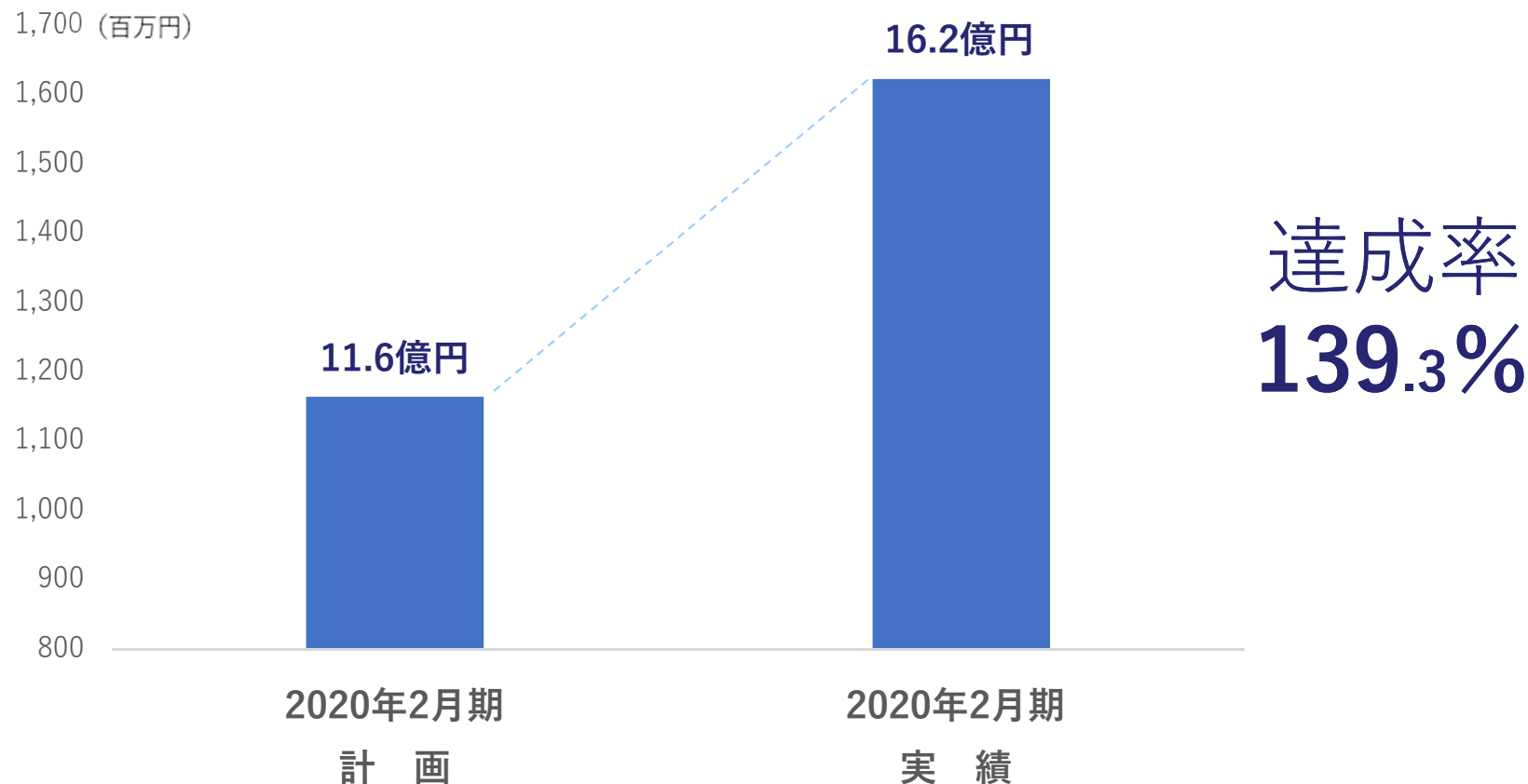
営業利益

営業利益も、M&Aにより当期に新たにグループ化した2社の貢献等により、達成率**125.1%**となる



EBITDA

EBITDAも同様の理由により達成率**139.3%**となる



(注) EBITDAは、営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + M&A取得費用で算出しております。

2020年2月期 決算ハイライト

2020年2月期は、M&Aで新たにグループ化した会社が貢献したこと等により営業利益、EBITDAは大幅に達成するも、為替差損等の要因により当期純利益は未達となる。

	2020年2月期		
	予 想	実 績	達成率
売上高	28,181	29,875	106.0%
営業利益	645	808	125.1%
経常利益	660	740	112.1%
当期純利益	341	177	51.9%
M & A取得費用除く 営業利益	645	891	138.1%
M & A取得費用除く EBITDA	1,165	1,623	139.3%

(注) EBITDAは、営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + M&A取得費用で算出しております。

▶ 営業利益⇒予想より25.1ポイントアップ、EBITDA⇒予想より39.3ポイントアップ

1. 新型コロナウイルス感染拡大の影響等を受け、決算日における外国為替相場が大きく変動したことにより為替差損を計上

- 当社は、Pacific Sorby及びNKR Continentalを取得した際に、シンガポール統括会社（Yoshimura Food Holdings Asia）に貸付を実施。世界的な新型コロナウイルスの感染拡大の影響等を受け、決算日において外国為替相場が大きく変動したため、貸付金にかかる為替差損108百万円を計上。

2. 税効果会計に伴う法人税等調整額の増加

- 子会社における繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、当期末において繰延税金資産43百万円を取り崩したことにより法人税等調整額が発生。

II. 2020年2月期 決算概要

前年比は、売上高126.0%、営業利益227.7%、当期純利益67.2%となる。

	2019年2月期		2020年2月期		前年比	(単位：百万円)
		構成比		構成比		
売上高	23,716	100.0%	29,875	100.0%	126.0%	【売上高】 ✓ M&Aにより前期からグループ化したSin Hin、当期からグループ化したPacific Sorby、森養魚場が寄与
売上総利益	5,087	21.5%	6,025	20.2%	118.4%	
販管費	4,732	20.0%	5,216	17.5%	110.2%	
営業利益	354	1.5%	808	2.7%	227.7%	【営業利益】 ✓ M&Aで増加した企業等が貢献し、営業利益率は1.2%増加
経常利益	420	1.8%	740	2.5%	176.1%	
当期純利益	263	1.1%	177	0.6%	67.2%	【当期純利益】 ✓ 為替差損及び税効果会計の影響により減益となる
M&A取得費用除く EBITDA	963	4.1%	1,623	5.4%	168.5%	

(注) EBITDAは、営業利益+減価償却費+のれん償却費+M&A取得費用で算出しております。

売上高の状況（セグメント別）

当期グループ化した2社および前期グループ化した会社が寄与し増収となる。

	2019年2月期	2020年2月期	前年比	(単位：百万円)
製造事業セグメント	17,165	20,639	120.2%	
楽陽食品	4,787	4,943	103.3%	【M&A】 ✓ 当期グループ化したPacific Sorby、森養魚場が寄与
オープン	2,853	2,932	102.8%	
純和食品	1,486	1,675	112.7%	【純和食品】 ✓ 海外輸出及びNB商品の販売が好調に推移したことにより増加
エスケーフーズ	3,602	3,559	98.8%	
JSTT	1,344	1,210	90.0%	【JSTT】 ✓ 主力店舗の改装、移転により売上が一時的に減少
その他（8社）	4,155	4,476	107.7%	
Pacific Sorby	—	2,137	—%	
森養魚場	—	690	—%	
販売事業セグメント	6,550	9,236	141.0%	
ヨシムラ・フード	5,512	4,752	86.2%	【ヨシムラ・フード】 ✓ 当社グループ間の内部取引の見直しをおこなったため減少
ジョイ・ダイニング・P	1,031	1,194	115.8%	
Sin Hin	1,327	3,988	300.4%	【Sin Hin】 ✓ 前期グループ化したSin Hinが通期寄与
合 計	23,716	29,875	126.0%	

※個別の業績につきましては、セグメント間の取引が含まれているため、各個別業績の合計とセグメント別の数値は一致いたしません。

売上高が伸長したことによる変動費等の増加及びグループ拡大に伴う増加。

	2019年2月期	2020年2月期	前年比	(単位：百万円)
販売費及び一般管理費	4,732	5,216	110.2%	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 子会社増による増加 ✓ 売上増加に伴う増加
運搬費	1,584	1,753	110.7%	
給与及び手当	941	971	103.2%	
貸倒引当金繰入額	△7	1	—	
その他	2,213	2,490	112.5%	

貸借対照表

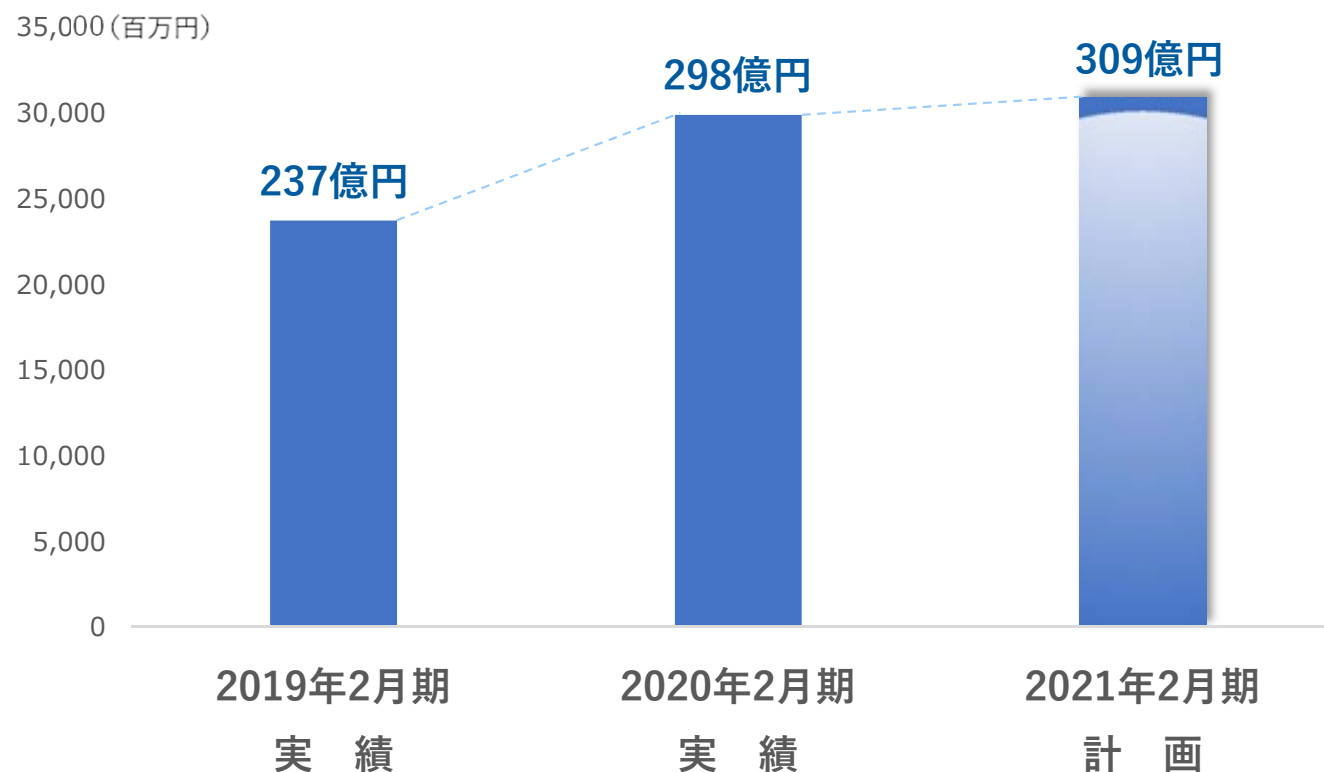
M&Aによる拡大に伴い資産・負債が増加。また設備投資をおこなったことにより有形固定資産が増加。

	2019年2月期	2020年2月期	前期末増減額	(単位：百万円)
流動資産	9,643	14,148	+4,504	【流動資産】
現金及び預金	2,085	3,015	+929	✓ グループ会社増加に伴う増加
売掛金	3,525	5,585	+2,060	
たな卸資産	3,766	5,350	+1,583	
その他流動資産	267	197	△69	
固定資産	5,537	9,729	+4,192	【固定資産】
有形固定資産	2,312	4,128	+1,815	✓ グループ会社増加に伴う増加
無形固定資産	2,794	4,811	+2,017	✓ 設備投資に伴う資産増加
その他固定資産	430	789	+359	✓ Pacific Sorby及び森養魚場取得に伴うのれんの増加
資産合計	15,180	23,877	+8,696	
流動負債	7,248	9,749	+2,501	【流動負債】
買掛金	2,298	2,757	+459	✓ グループ会社増加に伴う増加
短期借入金	2,720	3,039	+319	
1年以内返済予定長借	835	1,513	+678	
その他流動負債	1,395	2,438	+1,042	
固定負債	3,336	7,449	+4,112	【固定負債】
長期借入金	3,128	7,119	+3,991	✓ M&Aに伴う長期借入金の増加
その他固定負債	208	330	+121	
負債合計	10,585	17,199	+6,613	
純資産	4,595	6,678	+2,082	【純資産】
負債・純資産合計	15,180	23,877	+8,696	✓ グループ会社増加に伴う増加 ✓ 当期純利益等の計上

III. 2021年2月期 業績計画ハイライト

売上高

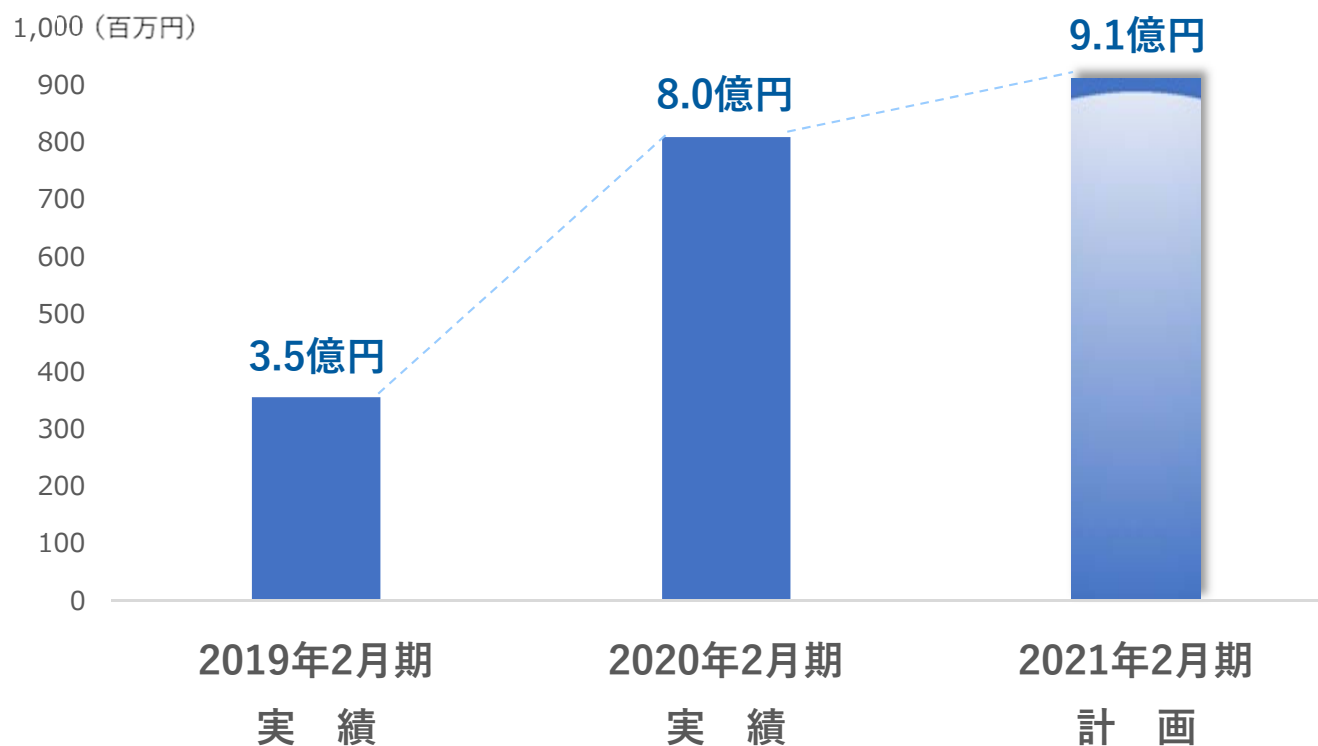
前期グループ化した企業が通期寄与することで売上が増加する一方、シンガポールにおける新型コロナウイルス感染拡大による減少を考慮し、前期比**103.4%**の計画



2021.2計画
前期比
103.4%

営業利益

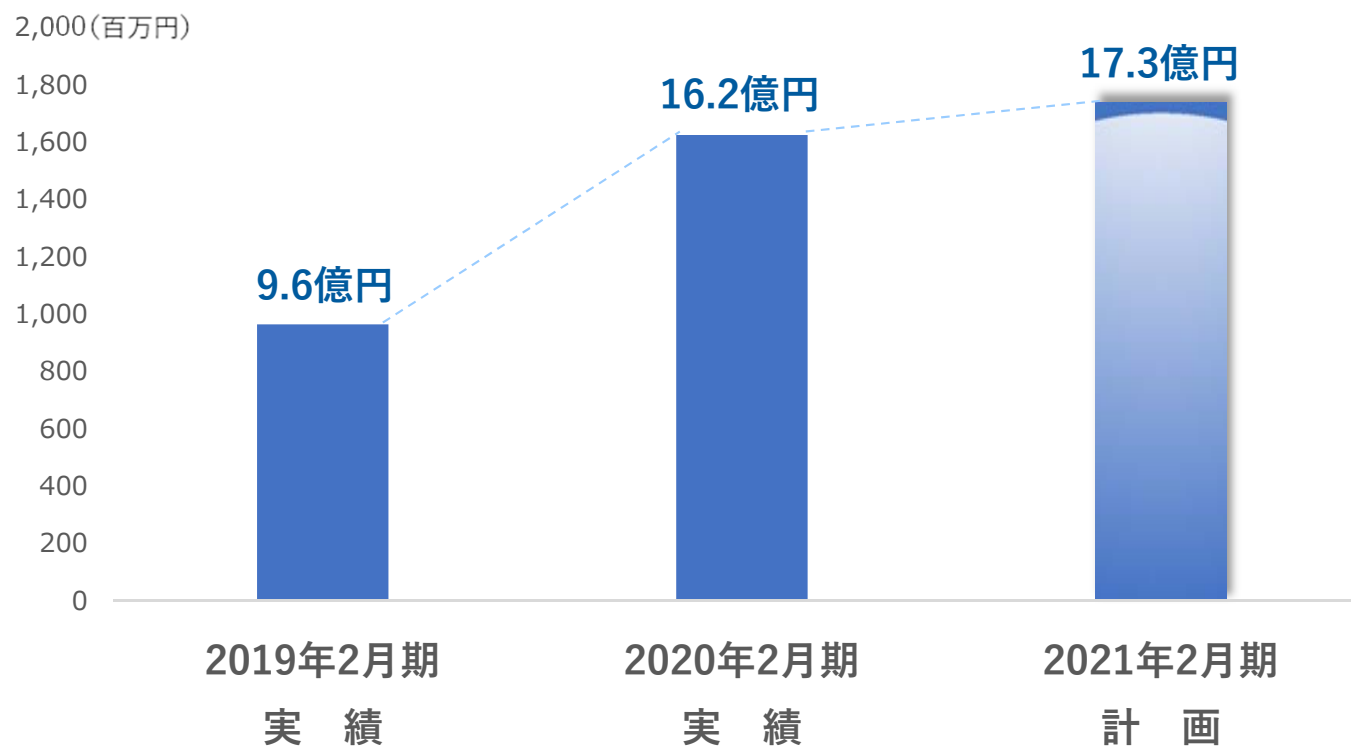
国内製造事業の業績向上により増加する一方、海外事業は新型コロナウイルス感染拡大による減少を考慮し、前期比**112.6%**の計画



2021.2計画
前期比
112.6%

EBITDA

EBITDAは、前期比107.1%の計画



2021.2計画
前期比
107.1%

(注) EBITDAは、営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + M&A取得費用で算出しております。

2021年2月期 通期業績見通し

前期グループ化した企業が通期寄与。国内事業は、製造事業の業績向上により利益が増加。一方、海外事業は、新型コロナウイルスの影響が通期で継続することを前提として保守的な見通しとする。なお、新たなM&Aによる成長は含めていない。

	2020年2月期		2021年2月期 (業績見通し)		前年比	(単位：百万円)
		構成比		構成比		
売上高	29,875	100.0%	30,900	100.0%	103.4%	【売上高】 ✓ 森養魚場及びPacific Sorbyが通期寄与 ✓ 各社5%程度の成長を見込む
営業利益	808	2.7%	910	2.9%	112.6%	
経常利益	740	2.5%	922	3.0%	124.6%	【営業利益】 ✓ M&Aにより加わった企業の貢献及び主力会社の利益率改善等により、過去最高益を見込む
当期純利益	177	0.6%	420	1.4%	237.2%	
M&A取得費用除く EBITDA	1,623	5.4%	1,739	5.6%	107.1%	

(注) EBITDAは、営業利益+減価償却費+のれん償却費+M&A取得費用で算出しております。

▶ 既存のグループ会社については、売上の増加、利益率の改善を見込む

1. 日本国内

- 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、外出自粛で家庭内での食事が増えたこと等により、スーパーや量販店の売上は増加傾向にある。国内における当社グループの主な販売先はスーパーや量販店であり、当社グループ企業の商品、特に乾麺、ゼリー、ピーナッツバター、シウマイやギョウザに対する需要が増加している。
- 但し、現時点で今後の影響期間や金額を適正かつ合理的に算定することは困難であるため、2021年2月期業績見通しは、直近の需要増による影響を含めていない。

2. シンガポール

- シンガポールにおける当社グループの主な販売先は、スーパー、ホテル、飲食店である。スーパー向けの売上は、国内と同様、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた外出自粛により増加傾向にあるものの、ホテルや飲食店向けの売上は、観光客の減少及び外出自粛の影響により減少傾向にある。
- 2021年2月期業績見通しは、現在の売上減少の傾向が通期で継続することを前提として保守的に作成。

IV. トピックス

2019年5月13日

事業拡大に向けた戦略的パートナーとして、発行済株式の70%を取得

会社概要

- 社 名 PACIFIC SORBY PTE. LTD.
- C E O Mr. Alvin (LAU SEOW HUA)
- 所 在 地 191 Pandan Loop Singapore
- 設 立 2014年12月
- 資 本 金 300,000SGD
- 売 上 高 2,665百万円 (円換算概算)
- 事 業 内 容 水産品の加工販売

M&A概要

- M&Aに至った理由
事業拡大に向けた戦略的パートナーを探していたため
- M&A後の成長戦略
 - ✓ Sin Hinの販路に対し、Pacific社の商品を販売することによる売上の増加
 - ✓ Pacific社の持つホテルに対する販路を活用し、JSTTの寿司の販売及び当社グループ商品の販売

業績推移

単位：百万円（1 SGD = 82円換算）

	2016/11期	2017/11期	2018/11期
売上高	2,136	2,487	2,664
税前当期純利益	148	177	321
当期純利益	120	149	269

- ✓ 2018年11月期は法人税額が確定していないため、当該会社が計算した数値により当期純利益を記載しております。
- ✓ 当社の2020年2月期決算には、9か月分の損益を取り込む。
- ✓ 本件は当社グループにて発掘した案件であるため、M&A業者へのフィーの支払いがなく、取得費用8百万円（概算）を2020年2月期決算に計上済。

商品等



主力商品

2019年6月3日

創業社長の後継者不在により、弊社が株式を譲り受ける。

会社概要

- 社 名 株式会社森養魚場
- 代 表 者 代表取締役 北堀 孝男
- 所 在 地 岐阜県大垣市墨俣町墨俣793
- 設 立 2019年3月
- 資 本 金 30百万円
- 売 上 高 778百万円
- 事 業 内 容 鮎養殖事業、水産加工品の製造・販売

M&A概要

- M&Aに至った理由
 - 創業社長に後継者がいないことによる売却
- M&A後の成長戦略
 - ✓ 弊社グループが保有する、日本全国及びシンガポール等アジアの販路を活用した売上の増加
 - ✓ 弊社グループの経営管理能力や資金力を活用した、更なる養殖技術の発展及び養殖管理の効率化

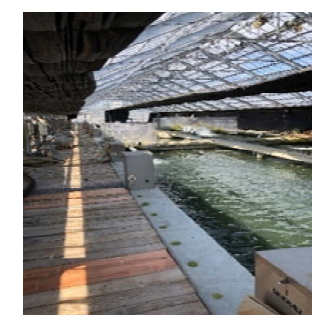
業績推移

(ご参考) 鮎養殖事業の最近3年間の業績推移 単位：百万円

	2016/12期	2017/12期	2018/12期
売上高	935	928	778
営業利益	336	276	283
当期純利益	230	184	195

(注) 当社が株式を取得した森養魚場は、株式会社森養魚場（分割会社）が2019年3月1日に設立した会社であるため、最近3年間の確定した業績はございません。当社がデュー・ディリジェンスをおこなった結果として作成した鮎養殖事業の最近3年間の業績推移を記載しております。

商品、設備等



岐阜県内3カ所に養魚場を構え、高い養殖技術と「清流の国ぎふ」の豊富な地下水を活かしながら、技術者により管理された大規模養殖設備の中で高品質な鮎を養殖・販売。

2020年1月15日

事業拡大に向けた戦略的パートナーとして、発行済株式の70%を取得

会社概要

- 社 名 NKR CONTINENTAL PTE. LTD.
- C E O SEOW YONG MENG
- 所 在 地 17A Joo Yee Road, Singapore 619202
- 設 立 1972年9月
- 資 本 金 2,000,000SGD
- 売 上 高 2,556百万円（円換算概算）
- 事 業 内 容 業務用厨房機器の輸入販売、製造販売、
設計施工、メンテナンス

M&A概要

- M&Aに至った理由
事業拡大に向けた戦略的パートナーを探していたため
- M&A後の成長戦略
 - ✓ NKR社、グループ会社のSin Hin及びPacific Sorbyの販路を相互活用し、クロスセルによる売上の増加を図る
 - ✓ NKR社のマレーシアにおける販路に対し、日本国内の当社グループ商品の販売を行う

業績推移

単位：百万円（1 SGD = 80.0円換算）

	2016/12期	2017/12期	2018/12期
連結売上高	2,051	2,172	2,556
連結税前当期純利益	102	156	198
当期純利益	77	112	155

- ✓ 2021年2月期より当社連結損益へ取り込みます。
- ✓ 本件は当社グループにて発掘した案件であるため、M&A業者へのフィーの支払いがなく、取得費用約20百万円を2020年2月期決算に計上しております。

主な製品・施工事例



オープン



調理機器

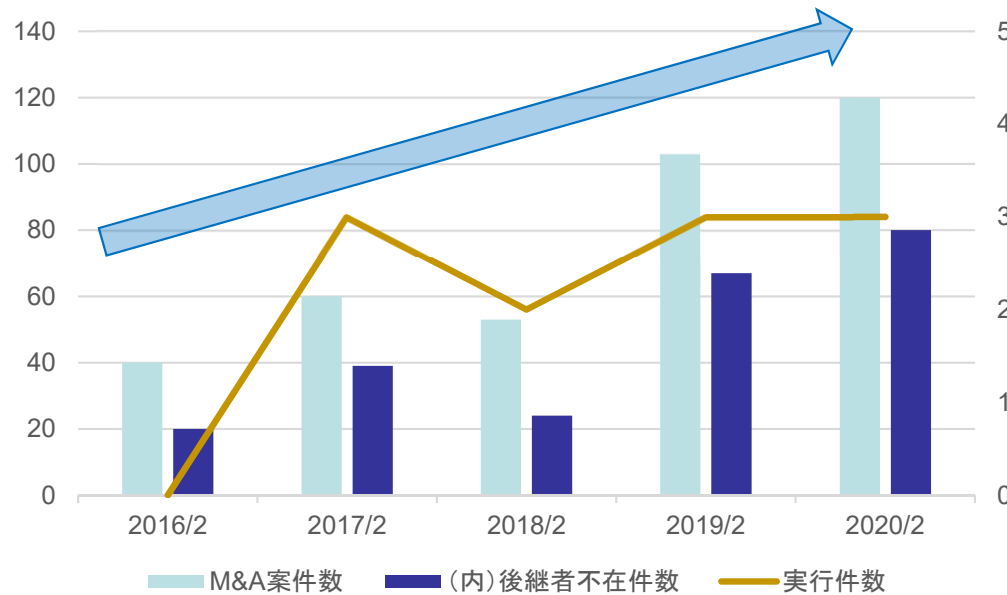


施工事例

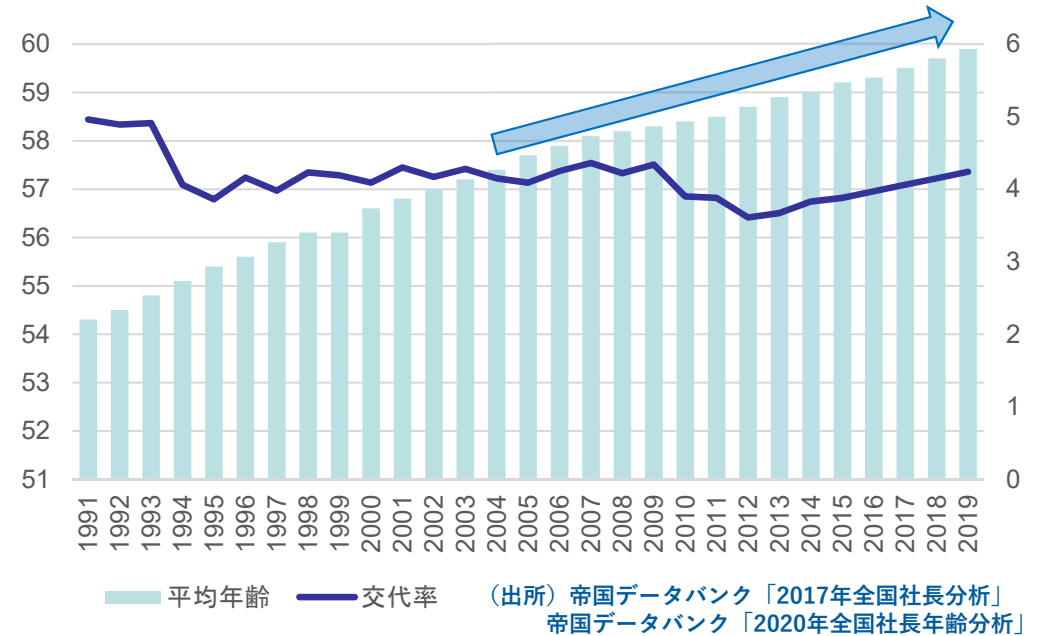
V. 事業戦略

①国内M & Aによる拡大

国内M & A案件数の推移



全国社長の平均年齢及び交代率の推移



当社のM & Aの現状

- M & A案件数の増加
 - ✓ 当社が検討するM & A案件数は増加傾向
⇒前期（2020年2月期）は約120件の紹介有り
 - ✓ 中でも後継者不在案件の割合が増加
- M & A案件増加要因
 - ✓ 事業承継問題をかかえた中小企業の増加
 - ✓ 当社の実績に基づく紹介の増加

事業承継問題の現状

- 中小企業経営者の高齢化
 - ✓ 2019年の社長の平均年齢は59.9歳と過去最高を更新
 - ✓ 足元社長交代率は4%程度と低位で推移
- 中小企業の廃業件数の増加
 - ✓ 2019年の中小企業の休業・廃業件数は4万3348件と、
2007年の約2万1000件から大幅増加（東京商工リサーチより）

②海外事業の拡大_海外事業の状況

- シンガポールにおいて新たにPacific Sorby、NKR Continentalの2社を譲り受け、アジア地域における事業を拡大中
- 海外グループ会社の販路を活用し、日本のグループ企業の商品を海外へ販売

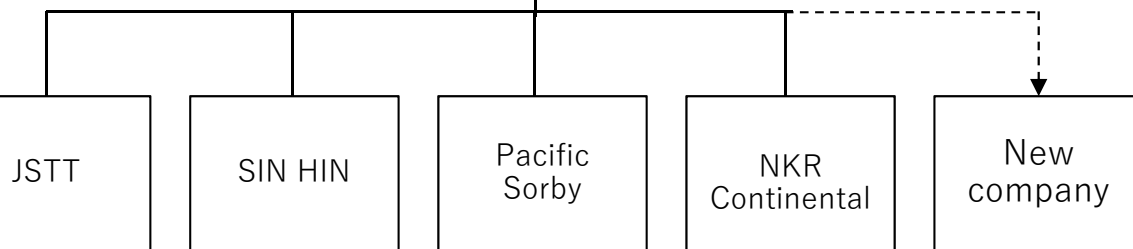
	<u>JSTT SINGAPORE</u>	<u>SIN HIN FROZEN FOOD</u>	<u>PACIFIC SORBY</u>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ シンガポール大手スーパーの寿司コーナーにて、自社工場で製造する寿司やおにぎりの販売及び日本製品の輸入販売 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アジア各地の有力な仕入先より高品質な冷凍水産品を仕入れ、シンガポール国内及びアジア各国の卸業者、小売業者、飲食店等へ販売 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 冷凍水産品や鮮魚を仕入れ、自社にて加工もしくは卸売にてシンガポールの高級ホテルや病院等へ販売
業績トピックス	<ul style="list-style-type: none"> ✓ SIN HINより紹介を受けた新規販売先との取引を開始、他にも新規取引先をグループの販路を使い開拓中 ✓ ゼリー、ピーナッツバター、日本酒等国内グループ企業の商品を寿司コーナーで販売、及びいくらやカキフライ、日本酒を自社飲食店にて使用 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ シンガポールの手スーパー、日系スーパー、大手パン屋等への純和食品のゼリーの売上が急拡大 ✓ SIN HINのシンガポール国外のネットワークを活用し、グループ企業商品を提案中 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ SIN HINの販売先数社に対し、PACIFIC SORBYの加工済み商品を販売開始 ✓ 受注増加に対応するため、工場を移転・拡張し、加工能力を増強予定
販売商品	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 純和食品（ゼリー）、桜顔酒造（日本酒）、おむすびころりん（ふりかけ）、ヤマニ野口水産（いくら）、オーブン（カキフライ）、ダイショウ（ピーナッツバター） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 純和食品（ゼリー）、オーブン（カキフライ） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ JSTTの寿司、国内グループ企業の商品（カキフライ、日本酒等）を提案中

③海外事業の拡大_アジア地域での事業拡大

シンガポール地域統括会社が、シンガポールで4社目となるM&Aを実施。アジア地域でのさらなる事業拡大を目指す。

ヨシムラ・フード・ホールディングス

YOSHIMURA FOOD HOLDINGS ASIA



2019年4月
シンガポールに地域統括会社を設立

当社が日本で行ってきたビジネスモデルをアジアで展開することで成長を目指す

1. M&Aによる規模の拡大
2. シナジー効果による成長

シンガポール市場への上場を目指し、知名度、信用力の向上による更なる成長を目指す

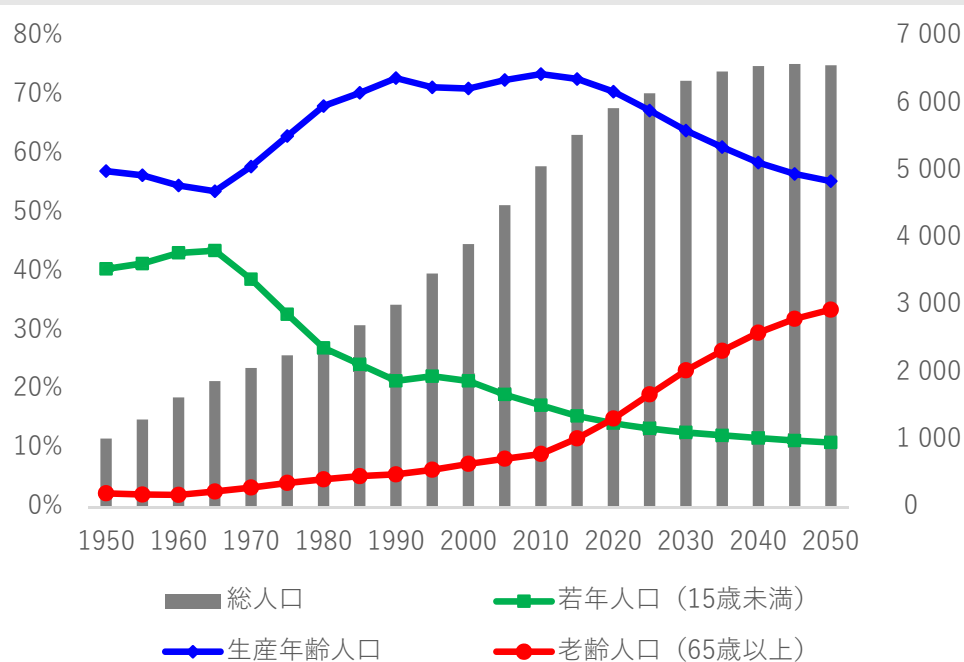
④海外事業の拡大_M&Aによる成長

シンガポールでも、後継者不在によるM&Aニーズの高まりが予想される

シンガポールでは、2015年以降高齢化が加速する見通し。一方で生産年齢人口は減少が予測されており、後継者不在によるM&Aニーズの高まりが予想される。

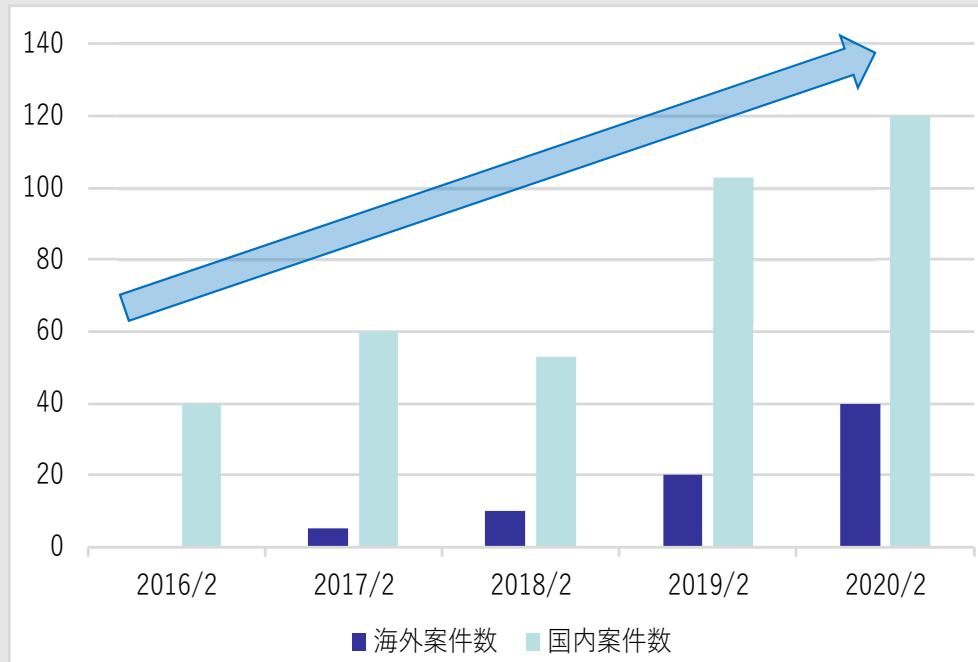
当社においても、海外企業へのクロスボーダー案件数は増加傾向。高齢化の進行もさることながら、直近のM&A実績により、当社の積極的な取組姿勢が評価されている。

シンガポールの人口予測、年齢別構成推移



【注】若年人口は15歳未満、生産年齢人口は15歳以上65歳未満、老齢人口は65歳以上。
 【資料】「World Population Prospects : The 2017 Revision」(国連)から作成、Zero-migration推計。

M&A案件数の推移 (国内・海外別)



VI. Appendix

社名	株式会社ヨシムラ・フード・ホールディングス
設立	2008年3月18日
代表者	代表取締役CEO 吉村 元久 代表取締役COO 北堀 孝男
本社	東京都千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル18階
資本金	527百万円 (2020年2月末現在)
主要株主	吉村元久 39.7%、日本たばこ産業(株) 4.8%、他
連結業績	売上高：29,875百万円 (2020年2月期)
従業員数	連結：1,062人 単体： 22人 (ともに、2020年2月現在)
事業内容	食品関連会社の株式を保有する持ち株会社。 子会社において各種食品の製造・販売。
グループ会社	主要連結子会社：19社
市場	東証1部 (2884)

代表取締役CEO 吉村 元久 プロフィール

出身地	北海道函館市
最終学歴	1988年3月 一橋大学商学部卒業 金融論専攻 1994年6月 ペンシルバニア大学大学院ウォートン校卒業 ファイナンス専攻 (MBA)
職歴	1988年 4月 大和証券株式会社入社 事業法人部 上場企業の資金調達業務 1996年 7月 同社 資産証券部 課長代理 資産の証券化業務 1997年 10月 モルガン・スタンレー証券株式会社入社 事業法人部 エグゼクティブディレクター コーポレートファイナンス業務 2008年 3月 株式会社ヨシムラ・フード・ホールディングス 代表取締役 (現任)

当社の歩みは、中小食品企業のM&Aと 当社ビジネスモデルへの共感企業からの出資の歴史

- (株)G-7ホールディングスより出資を受ける
- 日本たばこ産業(株) (JT) より出資を受ける

- シンガポールに地域統括会社を設立
アジア地域でのさらなる事業拡大を目指す

- ベンチャーキャピタル5社より出資を受ける

- (株)産業革新機構を割当先とする総額約9億円の増資を実施

- 東京証券取引所市場第一部へ市場変更

- 東証マザーズ上場

3月

- 当社設立
⇒事業開始

2008年 2009年 2010年 …… 2013年 2014年 2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年

グループ化① 12月

株式会社ミズホ
(現：ヨシムラ・フード)

グループ化② 12月

楽陽食品株式会社

グループ化③ 2月

白石興産株式会社

グループ化④ 7月

株式会社ジョイ・
ダイニング・プロダクツ

グループ化⑤ 12月

株式会社桜顔酒造

グループ化⑥ 1月

株式会社オーブン

グループ化⑦ 2月

株式会社ダイショウ

グループ化⑧ 2月

株式会社雄北水産

グループ化⑨ 7月

純和食品株式会社

グループ化⑩ 9月

栄川酒造株式会社

グループ化⑪ 9月

株式会社エスケーフーズ

グループ化⑫ 10月

株式会社
ヤマニ野口水産

グループ化⑬ 12月

JSTT SINGAPORE

グループ化⑭ 3月

株式会社おむすび
ころりん本舗

グループ化⑮ 8月

株式会社まるかわ食品

グループ化⑯ 9月

SIN HIN FROZEN
FOOD

グループ化⑰ 5月

PACIFIC SORBY

グループ化⑱ 6月

株式会社森養魚場

グループ化⑲ 1月

NKR CONTINENTAL

製造事業セグメント

楽陽食品



シウマイ・餃子

- 国内5カ所に工場
- チルドシウマイの生産量は国内トップシェア

桜顔酒造



日本酒

- 昭和48年岩手県の地場の酒蔵10社で設立
- 県内出荷量2位

純和食品



ゼリー

- 高い技術力と彩の国HACCPに認定された高い品質管理能力

ヤマニ野口水産



水産加工品

- 鮭とばやいくら醤油漬け等北海道の新鮮な原料を使用した水産品を製造

まるかわ食品



ぎょうざ

- 静岡において、秘伝のレシピよぎょうざを製造
- 自社店舗には行列が絶えない人気店

NKR CONTINENTAL



業務用厨房機器販売

- 主にシンガポールやマレーシアの高級ホテルやレストランに対し、業務用厨房機器を設計・製造・販売

販売事業セグメント

ヨシムラ・フード



業務用惣菜

- 業務用食材の企画・販売が主、自社で物流を持たず、販売先へ直送するビジネスモデルを構築

ダイショウ



ピーナッツバター

- ピーナッツバターのパイオニアで、主力商品は30年以上続くロングセラー

オープン



冷凍かきフライ

- 広島産カキを調達する独自ルートを保有
- 鶏なんこつのから揚げ等も製造

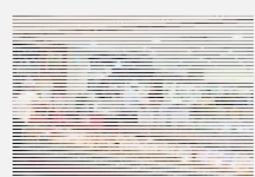
栄川酒造



日本酒

- 業歴約150年の会津の酒蔵、栄四郎」は全国新酒鑑評会金賞を受賞

JSTT SINGAPORE



寿司

- シンガポールの工場にて寿司等を製造し、シンガポールの大手スーパーへ販売

PACIFIC SORBY



水産加工品

- シンガポールの主要なホテルに対し、自社加工した冷凍ロブスター、カニなどを加工・販売

ジョイ・ダイニング・プロダクツ



宅配等

- 冷凍食品の企画・販売
- 全国の生活協同組合と直接窓口を保有

白石興産



乾麺

- 創業130年
- 宮城県白石市特産の白石温麺が主力商品

雄北水産



まぐろ加工品

- 船凍品のまぐろのみを使用した、ねぎとろ、まぐろ切り落としを製造販売

エスケーフーズ



とんかつ

- 「彩の国優良ブランド」に認証された「むさし野とんかつ」が主力商品

おむすびころりん本舗



フリーズドライ

- フリーズドライ加工、フリーズドライ製品の製造、非常食の販売

森養魚場



鮎 (アユ)

- 岐阜県内3カ所において、高品質な鮎を養殖、販売
- 高度な養殖技術を有し、子持ち鮎の安定生産が可能

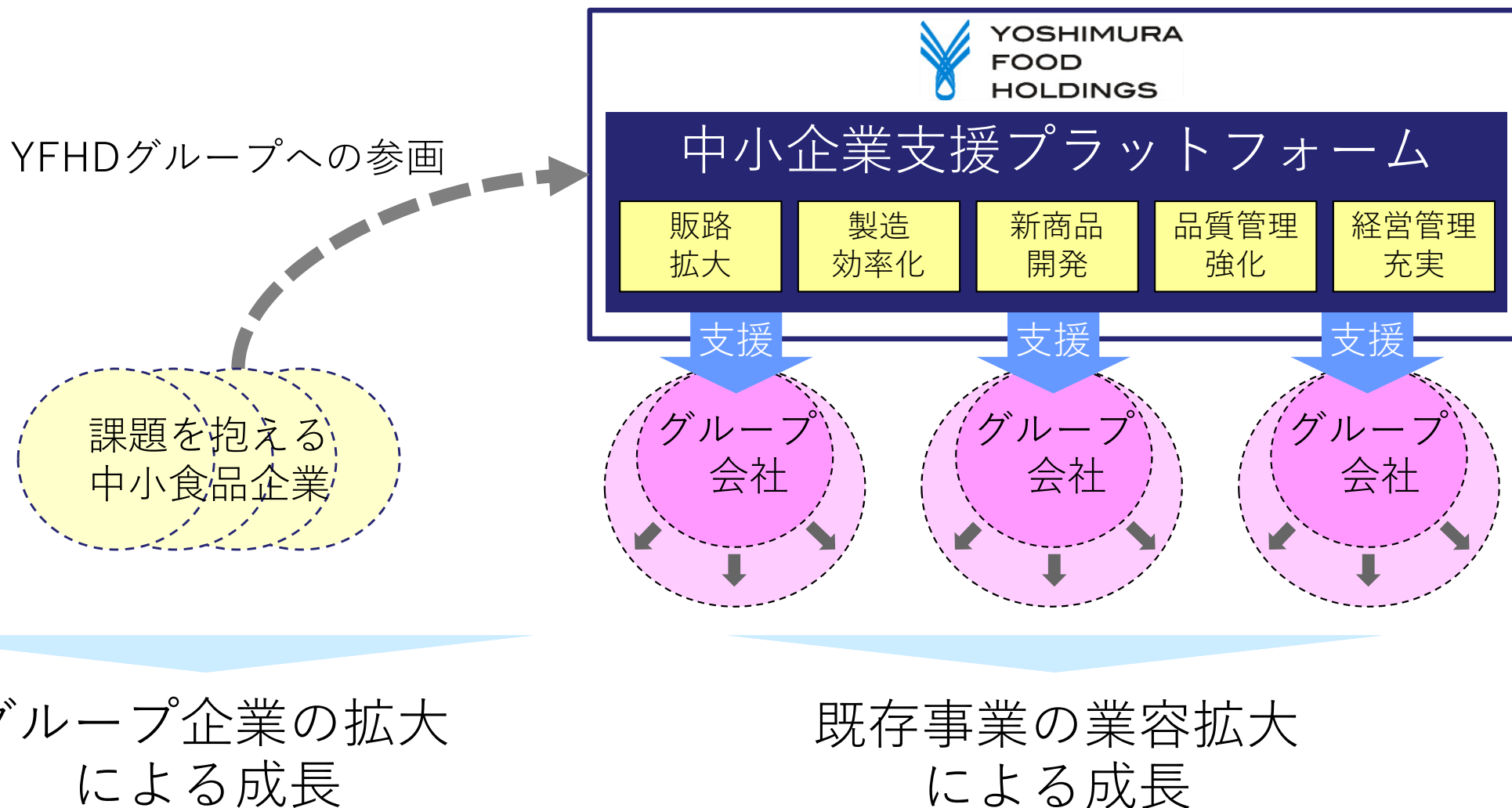
SIN HIN FROZEN FOOD



水産品卸

- シンガポールの水産品卸
- 主力商品は、エビ、ホタテ、カニ等

食品業界においてユニークなビジネスモデルにより、 当社は2つの成長エンジンを有する

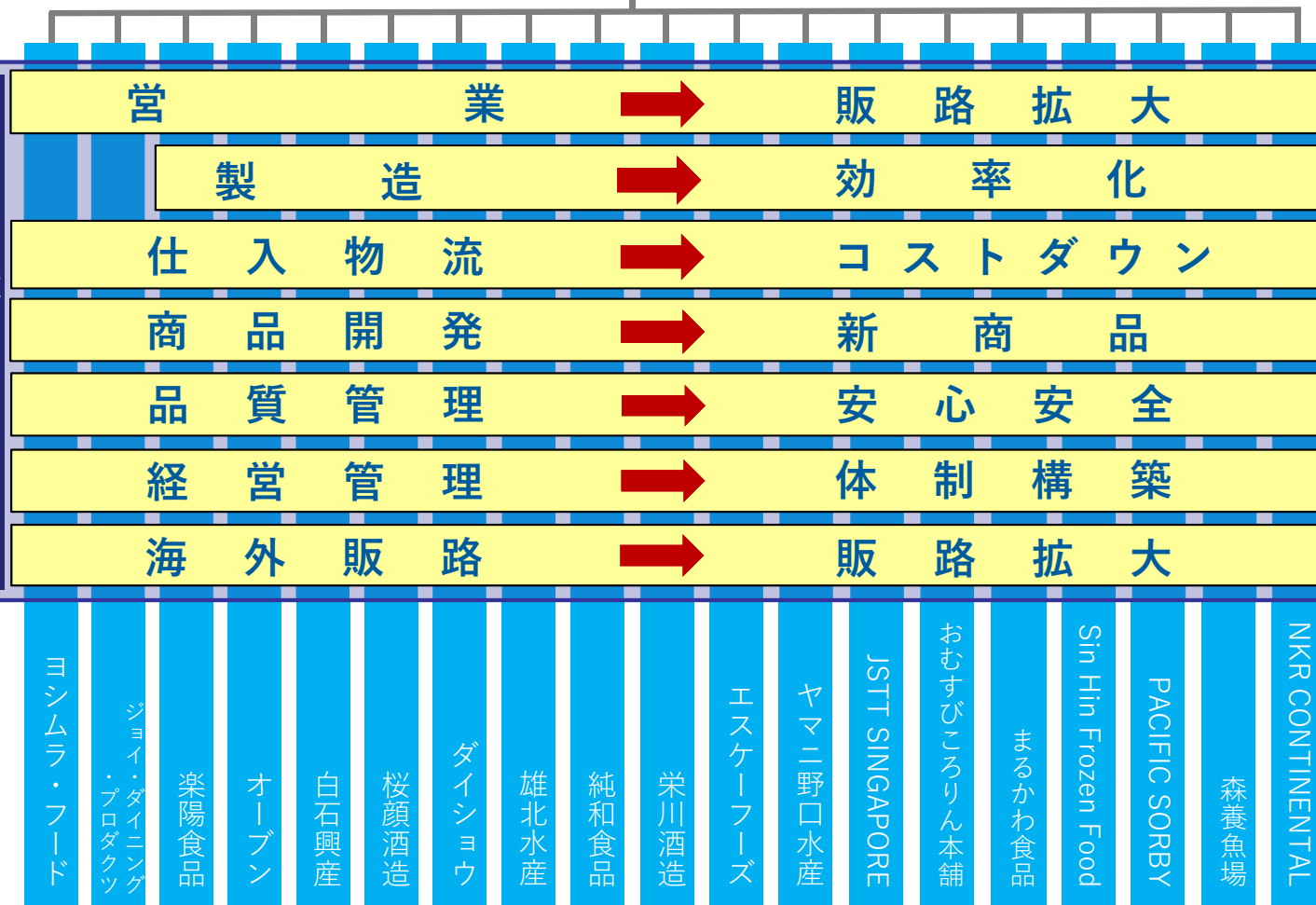


グループ会社を「機能別に統括」することで「相互補完・相互成長」を図る仕組み

統括

ヨシムラ・フード・ホールディングス

グループ会社の有機的な相互補完関係



会社の壁を越えて機能ごとに横断的組織を構築

グループで最もノウハウをもった人材が統括責任者となりグループ横断的に統括

各社の持つ強みをグループ全体で共有し弱みを補い合う

中小企業支援プラットフォーム